

## ウィリアムソン・ディッキー・ジャパン・リミテッド合同会社、 経営管理・予算編成のクラウド基盤に「Adaptive Planning」を導入 ～予算、見通し管理の一元化によるPDCAサイクル高度化の実現～

Adaptive Insights株式会社  
2016年3月1日

Adaptive Insights ジャパン株式会社（本社：東京都港区南麻布、日本代表：篠原史信、以下 Adaptive Insights ジャパン）は、アメリカ・テキサス州発のカジュアル・ワークウェアブランド「ディッキーズ」の日本法人ウィリアムソン・ディッキー・ジャパン・リミテッド合同会社（本社：東京都港区赤坂、代表：平山真也、以下ディッキーズ）が、経営管理・予算編成のクラウド基盤に、Adaptive Insights のクラウド業績管理ソリューション「Adaptive Planning」を採用したことを発表します。

Adaptive Planning とは、Adaptive Insights 社が提供するクラウド予算管理システムです。Excel（エクセル）とマンパワーによって非効率なまま残される事の多い予算編成業務や業績見通し業務を Web ベースの軽快な仕組みで改善し、予算の早期化と業績見通しの精度向上に大きく貢献します。さらに、本システムの導入により、経営意思決定の PDCA サイクルをさらに促進し、日々刻々と変化する経営状況に柔軟に対応した精緻かつ正確なインサイトを得ることで、業績の向上を目指します。

ディッキーズでは、様々な製品や販路の財務情報を管理・報告するために、Excel を駆使して行っていました。数十に及ぶシートのフォーマット管理や、数百種の製品カテゴリの管理、シート間のデータ集計に多くの時間を取られ、また手作業によるミスや見通し数値の把握頻度や速度に課題を抱えていました。数値集計から、月次見通し予測の拠点別展開と要因分析、より正確でドリルダウン可能な経営会議資料作成までを迅速に作成するために、さらなる事業推進には不可欠であり、業績予測・予算編成クラウド基盤である「Adaptive Planning」の採用を決定しました。

導入後は会計周辺システムとのデータ連携をより強化し、製品カテゴリや品目ごとのデータを予算・実績・見通しの全てにおいて「Adaptive Planning」で全て一元管理できるよう、環境を拡大していく事を目標としています。「Adaptive Planning」の採用のポイントは、短期間での導入実績、月額課金制の料金体系による低コストな初期投資、また、部門に負担をかけずに導入可能な開発不要の製品思想が高く評価されました。本案件の提案、導入に当たっては長年の導入経験を武器とする株式会社パブリックアイデンティティが活躍し、Adaptive Planning に関するサービスを提供します。

Adaptive Planning は、Adaptive Planning（予算編成・レポート）、Adaptive Consolidation（管理連結）、Adaptive Discovery（ダッシュボード）の3つから構成されるスイート製品で、短期導入の後には部門別、バージョン別、シナリオ別に売上げや経費、顧客、原価、人員などのビジネスドライバを把握し、変化の追跡や要因分析ができる環境を提供します。Adaptive Planning の詳細はこちら（<http://www.yosankanri.jp/>）をご覧ください。

### ● 本件に関するお問い合わせ先

Adaptive Insights株式会社 営業部 吉岡、篠原  
03-6369-8130  
info.jp@adaptiveinsights.com  
<http://adaptiveinsights.com/jp/>